

# St. Luke's International University Repository

## Patient complianceの概念分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長, 佳代, Cho, Kayo メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.34414/00014936">https://doi.org/10.34414/00014936</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## “Patient compliance” の概念分析

長 佳 代<sup>1)</sup>

### 要 旨

さまざまな批判や議論がありながらも，“patient compliance”が多くの文献で用いられているのはなぜだろうか。この疑問を明らかにするために、看護、医学、心理学の領域の文献における“patient compliance”の使用のなされ方を分析し、その属性を見極めることを目的として、概念分析を行った。

方法は、Rodgers と Knafl (2000) により提唱された概念分析の方法に基づいて行った。

分析対象は、1975年から2000年までに、看護、医学、心理学の領域で出版された定期発行誌の英語文献から選択した。MEDLINE, CINAHL, PsycINFOにおいて、“patient compliance”あるいは“compliance”をキーワードとしている文献、それぞれ3,874, 986, 3,095文献を母集団に、5%, 10%, 5%を無作為に抽出し、計399文献をサンプルとした。分析は、タイトルとアブストラクトの記述を中心に行い、必要時本文を確認した。

分析によって、以下の事柄が明かとなった。

“Compliance”の属性は、次の5つであった。

- ① ヘルスケアプロバイダーが用いる用語としての“compliance”
- ② ヘルスケアレシピエントに関する用語としての“compliance”
- ③ ヘルスケアレシピエントの一定の行動を問う用語としての“compliance”
- ④ 一定期間の行動を問う用語としての“compliance”
- ⑤ 時間の経過とともに変化する“compliance”

“Compliance”と相互交換可能に用いられている代替の用語は、“adherence”であり、関連概念は、“mutuality”“therapeutic alliance”“concordance”であった。

分析により、“patient compliance”は、ヘルスケアレシピエントの行動が、ヘルスケアプロバイダーの助言に一致したか否か、あるいは一定の期間における一致の度合いを表す概念であることが明らかとなった。本概念によって言及される情報は、医療者の実践内容に影響する重要なものであり、この点が、さまざまな議論や批判がありながらも、本概念が多くの文献で用いられている理由と考えられた。

#### キーワード

コンプライアンス, 概念分析, 看護

### I. はじめに

「コンプライアンス」は、われわれ医療者が日々の実践で頻繁に用いている用語である。関連した文献の数は多く、年々増加する傾向にある。一方で「コンプライアンス」は多くの批判や議論がある用語でもある。批判や議論がありながら、多くの文献でこの用語が用いられているのはなぜだろうか。

日本語の文献を検索したところ、この用語に概念的な検討を加えた文献や、定義をしたうえで用いている文献はほとんど見あたらなかった。そこで、この用語の原語

である“patient compliance”に立ち返る必要があると考え、英語文献における本概念の分析を行った。

### II. 文献の検討

英語文献においても、“compliance”を用いた文献は非常に多く、その数は年々増加している。MEDLINEを例にとると、“patient compliance”をMeSH Major Topicとした文献数（アブストラクトを伴う英語文献）は、1975～1979年には年間50文献以下であった。1980年代になって50文献を上回り、1983年に100文献を超えると、その後も増加を続け、1999年以降は年間300文献以上となっている。

“Compliance”という用語は、看護・医学の領域に

受付日2004年3月31日 受理日2005年2月7日

1) 東京慈恵会医科大学医学部看護学科

おいては、2つの異なる意味をもつ。ひとつは、「患者が、服薬、食事、運動などに関して、医療者の出す指示や助言に従って行動すること」<sup>1)</sup> という意味である。もうひとつは、「圧力に対する構造物の伸展性」<sup>2)</sup> を意味し、「肺や膀胱、胆のうなどの空洞臓器の膨張しやすさの指標」<sup>3)</sup> を表すときに用いられる。

前者の意にあたる“patient compliance”の概念は、1976年、Sackettにより医学の領域に紹介されたとされている。彼とHaynesは“compliance”を、“the extent to which a person's behavior (in terms of taking medications, following diets, or executing lifestyle changes) coincides with medical or health advice”<sup>4)</sup> と定義した。

この定義は、「最も引用され、批判された」<sup>5)</sup> 定義とされている。その批判とは次のようなものである。

Holmは、“compliance”という概念は、医師が決定し患者が従うというパターンリスティックな考えと避けがたく結び付いており、医師-患者関係が「患者の自己決定への自主性と基本的権利が認められた関係の形成へ向かうにつれ、我々は現在の“compliance”の概念を捨て去らなければならない」<sup>6)</sup> と述べた。

パターンリスティックな考えを含蓄するという指摘は“compliance”という概念に向けられた批判の代表的なものである。Mooreは、患者を“non-compliant”とラベル付けする専門家は、患者に処方された療法の影響を考えるよりも手軽なパターンリスティックな原則に従っており、専門家は指令し患者が批判することなく同意する状況は好ましいものではないと述べ、共働を伴うべきであるとした<sup>7)</sup>。Conwayは、“compliance”は患者が処方者の権威に服従し、治療に従順であることを意味することから、「意思決定における患者の主体性を制限し、相互の尊重に基づく問題解決の可能性を減じる」<sup>8)</sup> と述べている。

医療の文脈以外で“compliance”という用語が用いられるとき、より高い権威からの要求や指令に無抵抗に屈したり服従したりする義務を含蓄する。このため、医療の文脈においても、患者に対する医療者の絶対的な権威を暗示しており、このことは、ケアに関する患者の意思決定への参加の権利を否定し、自律性の喪失を導くと批判されている。“Compliance”は、不快な用語なので、代わりに“adherence”を用いるべきだとする著者がいる一方、医療者と患者の話し合いや合意を強調したり<sup>9)</sup>、サポートティブな関係性に言及する<sup>10)</sup> などとして、独自の“patient compliance”の捉え方を示し、この概念を用いている著者も存在する。そして多くの文献は定義しないまま、“compliance”あるいは“adherence”を使用している。

何らかの問題があり使用に適さない概念は、やがて衰退し、消え去るものである。多くの批判や議論がありながらも、“patient compliance”に関する文献がその数を

増し続けているという現状は、矛盾している。そこで、この概念の、看護、医学、心理学の領域の文献における使用を分析する必要があると考えた。

### III. 目的

本分析の目的は、看護、医学、心理学の領域の文献における“patient compliance”の使用のされ方を分析することにより、その属性を見極めることである。

### IV. 概念分析の方法

本分析は、RodgersとKnafelにより提唱された概念分析の方法に基づいて行った。「概念の明確化の課題は、その概念の表現のされ方を通して、一般的な使用方法を分析することにより成し遂げられる」<sup>11)</sup> と述べているRodgersらの概念分析の方法は、多くの文献で使用されている概念である“patient compliance”の概念分析に適していると考えた。

分析対象となる文献は、1975年から2000年までに、看護、医学、心理学の領域で出版された定期刊行誌の英語文献から選択した。MEDLINE、CINAHL、PsycINFOにおいて、“patient compliance”あるいは“compliance”をキーワードとし、アブストラクトを伴う文献、それぞれ3,874、986、3,095文献を母集団に、5%、10%、5%を無作為に抽出し、重複している文献および“compliance”が医療の文脈以外で用いられている文献を除いた計399文献をサンプルとした(表1)。

分析は、タイトルとアブストラクト中の記述を中心に行った。タイトルは、「その文献の主要なトピックおよび扱った変数や理論的な問題を簡潔に述べるべき」<sup>12)</sup> であり、アブストラクトは、「内容を包括的に要約すべき」<sup>13)</sup> であるとされていることから、これらを分析することで、“patient compliance”という概念の使用のなされ方が浮かび上がるものと考えた。ファイルメーカーPro3.0を用い、各文献について、取り扱っているテーマ、研究対象、場(“setting”)、その文献の中心的内容を表す単語、先行要件・帰結に関連する情報などを整理する文献カードのフォーマットを作成し、入力し分析した。タイトル、アブストラクトから必要な情報を読み取れない文献や、逆に非常に興味深い事柄が書かれている文献については、当該文献の本文を確認した。

### V. 結果

分析によって明らかになった概念の属性、代替の用語と関連概念、“references”、先行要件、帰結を述べる。

## 1. 属性

### 1) ヘルスケアプロバイダーが用いる用語としての“compliance”

399 文献中 306 文献は、特定の研究対象のある文献であった。すなわち、誰かの“compliance”について言及していた。93 文献は、研究対象を有さない文献レビューや総説であった。

306 文献の研究対象は、ヘルスケアレシピエント 275 文献、ヘルスケアプロバイダー 7 文献、その双方 10 文献であった。ヘルスケアプロバイダーが対象であった 7 文献中 4 文献は、“non-compliant”なヘルスケアレシピエントに対するヘルスケアプロバイダーの思いや対応をテーマとする文献であり、2 文献は感染性の疾患によりヘルスケアプロバイダーがヘルスケアレシピエントの立場になった場合を扱った文献であった。ヘルスケアレシピエントとヘルスケアプロバイダーの双方が対象であった 10 文献は、ヘルスケアレシピエントの“non-compliance”に影響するヘルスケアレシピエント・プロバイダー双方の要因を検討したものや、ヘルスケアプロバイダーによるヘルスケアレシピエントの“compliance”の評価をレシピエントの自己報告と比較検討したものなどであった。このことから、“compliance”はヘルスケアプロバイダーが用いている用語であり-1)、ヘルスケアプロバイダーとヘルスケアレシピエントの双方が使用している用語ではないという属性、およびヘルスケアレシピエントに関する何事かに言及する用語である-2) という属性が浮かび上がった。

### 2) ヘルスケアレシピエントに関する用語としての“compliance”

1) に前述のとおりである。

### 3) ヘルスケアレシピエントの一定の行動を問う用語としての“compliance”

399 文献で取り扱っているテーマは、薬物療法に関するものが 125 文献、疾患の治療・療法全般およびセルフケアに関するものが 65 文献、外来受診に関するものが

29 文献、検診や相談の受診やフォローアップに関するものが 27 文献、食事療法に関するものが 17 文献、運動療法に関するものが 10 文献などであった。テーマの集計から、“compliance”という用語が言及しているのは、ヘルスケアレシピエントが薬を処方のとおり服用したかや、外来受診の約束を守ったか、検診や相談を受けたか、食事療法や運動療法を実践しているか、それら全般に関してどうであったかといった事柄であることがわかった。

さらに、その文献の中心的内容に言及していると考えられる用語の抽出において、120 文献では“compliance”も“adherence”も用いられていなかった。代わりに用いられていたのは“attendance”“appointment”“refusal”“acceptance”“participation”など(表 2)であり、ヘルスケアレシピエントがこうした行動をとったか否かが論じられていた。

以上から、“compliance”が言及しているのは、ヘルスケアレシピエントのある一定の行動であり、ヘルスケアレシピエントがその行動をとったか否かであるという属性が明らかとなった。

### 4) 一定期間の行動を問う用語としての“compliance”

文献の中心的内容に言及していると考えられる用語の抽出において、“compliance”も“adherence”も用いられていなかった 120 文献から抽出された用語に、“continuation”“retain”“persistence”“attrition”“decay”などがあつた(表 2)。

また、399 文献が、どのような領域に関する文献であったかをみると、HIV や結核、精神疾患など長期にわたる服薬や経過観察を要する疾患に関するものが 131 文献、糖尿病や高血圧をはじめとした慢性疾患に関するものが 89 文献、疾病の予防や早期発見のために定期的に行うことが望ましいがん検診や予防接種に関するものが 27 文献、中止するためには長期にわたる本人の努力や専門家による援助を要する物質乱用や禁煙、肥満に関するものが 25 文献などであった。

以上から、“compliance”が、暗黙のうちに一定期間

表 1 文献サンプル

	No. of Articles Cited	No. of Articles Retrieved (n=444*)
MEDLINE Patient-Compliance in MJ**, with AB**, 1975-2000.	3,874	194
CINAHL Patient-Compliance in MJ or Medication-Compliance in MJ, with AB., 1982-2000.	986	98
PsycINFO Compliance in MJ, 1975-2000.	3,095	152

\*444 文献中、医療の文脈以外の 45 文献は対象外とし、分析対象は 399 文献とした。領域別の内訳は、看護 107 文献、医学 185 文献、心理学 107 文献であった。

\*\* (MJ= Mesh Major Topics, AB= abstract)

の行動を問うという属性が浮かび上がった。行動が問われる期間の長さは、数日から数年とさまざまであり、特に規定していない任意の期間のまま“compliance”が用いられている場合もあった。

### 5) 時間の経過とともに変化する“compliance”

文献の中心的な内容に言及していると考えられる用語の抽出において、“attrition”“decay”という単語が抽出された(表2)。また、“compliance”は時間とともに変化する、や、衰退する<sup>14)・20)</sup>と記述した文献もみられた。このことから、“compliance”という用語で言及するヘルスケアレシピエントの行動は、時間とともに変化する、多くは衰退するという属性が浮かび上がった。

## 2. 代替の用語と関連概念

代替の用語は、「同じ概念を表わすのに相互交換可能な用語である」<sup>21)</sup>。分析の結果、タイトルで“adherence”という用語を用いていた文献が53文献(うち2文献は“compliance”と併用)、アブストラクトで用いていた文献が75文献(うち14文献は“compliance”と併用)あった。このことから、“compliance”と相互交換可能に用いられている代替の用語は、“adherence”であると考えられる。

関連概念とは、「分析中の概念と何らかの関係を有するが、同じ属性を分かつとは考えられない概念」<sup>22)</sup>をさす。“patient compliance”の関連概念としては、“cooperation”“mutuality”“therapeutic alliance”“concordance”があげられる。これらは、いずれもヘルスケアレシピエント・プロバイダーの関係性や関係を形成するプロセスに注目した概念であり、両者の相互関係の先にある行動に注目する“patient compliance”とは、同じ属性を共有しないと分析した。以下に、これらの関連概念について述べる。

### 1) “Cooperation”

“Cooperation”は、「協力、共同、協調性」<sup>23)</sup>であり、KrepsとThornton<sup>24)</sup>は、乏しい“compliance”の責任を一方的に患者に押しつける見方に反対する立場から、“cooperation”という用語は好ましいと述べた。

Vivian<sup>25)</sup>は、“cooperation”が、患者とプラクティショナー双方が健康上のアウトカムの責任を分け合うことを示唆する用語であると述べている。

### 2) “Mutuality”

Henson<sup>26)</sup>は、“mutuality”を、他者との関係や理解であり、それは人々のつながりが変化するダイナミックなプロセスを容易にすると定義した。そして、相互になる過程は、共通に分かち合われる展開する動きであるという感覚と、共通のゴールに向かう感覚と、かわる人すべての満足の感覚によって特徴づけられ、“mutuality”のプロセスはゴール到達の成功に先行する、とした。

### 3) “Therapeutic alliance”

ハイブリッドモデルを用いて“therapeutic alliance”の概念分析を行ったMadden<sup>27)</sup>は、“therapeutic alliance”を、患者-プロバイダーの相互作用のなかで生み出されるプロセスであり、その中で患者とプロバイダーは、患者の現在の健康状態とライフスタイルに見合う健康行動開発のゴールに向かって活発に動き、そのゴールに向かって実行される活動を明らかにするための共同の話し合いに焦点を合わせ、ゴールを容易にするために支持的で公平な治療的關係を用いる、と定義した。そして、“therapeutic alliance”は、患者-プロバイダーの出会いの成果よりも関係発達のプロセスを強調する点において、“compliance”あるいは“adherence”と対照的であるとしている。

### 4) “Concordance”

Laederach-HofmannとBunzel<sup>28)</sup>は、英国のRoyal Pharmaceutical Societyが、将来“concordance”という用語を使用するよう推奨していることを紹介し、“concordance”は、治療的同盟において同等な立場のパートナー間の関係を描写していると述べている。Laederach-HofmannとBunzelは、“compliance”と“adherence”に対して、“concordance”は、患者の側に、過失のある行動をもたらすいかなる受動的な役割も暗示しないとしている。

表2 “Compliance”“adherence”を用いていない文献のタイトル・アブストラクト中で用いられていたその文献の中心的内容に言及していると考えられる用語

Number of articles	Clue terms
11~20	Attendance
6~10	Appointment, refusal
~5	Acceptance, participation, continuation, retention, self-care, completion, control, cooperation, management, miss, no-show, drop out, informed consent, involuntary, persistence, responsibility, retain, understanding, abstinence, adjustment, assent, attrition, comprehension, decay, defaulting, drug not taken, follow, follow recommendation, follow-up, health literacy, joiners, keep in treatment, medication taking behaviors, positive attitude, resist, responsibility, self-administration, treatment failure, up take, willingness

### 3. “References”

分析を行った文献において、“patient compliance” という概念は、長期にわたる服薬や医学的な管理を要する身体状況のヘルスケアレシピエントに関して最も頻回に言及されていた。長期にわたる服薬や経過観察を要する疾患に関する 131 文献、糖尿病や高血圧をはじめとした慢性疾患に関する 89 文献を合わせた 220 文献がこれにあたる。

がん検診受診や予防接種に関する 27 文献、薬物やアルコールなどの物質乱用からの脱出や禁煙、減量に関する 25 文献においても、“compliance” という用語が用いられていた。ヘルスケアレシピエントが自らの意思によって健康の保持増進のためにとる行動に関しても、ヘルスケアプロバイダーは“patient compliance” という概念を用いていることがわかった。

### 4. 先行要件

“Patient compliance” は、ヘルスケアレシピエントが一定の行動をとったか否かをヘルスケアプロバイダーが言及する際に用いる、という属性から、先行要件として、言及するヘルスケアプロバイダーと言及されるレシピエントが存在していること、があげられる。

次に、“patient compliance” が問われるときには常に、一定の行動の必要性がヘルスケアレシピエントに生じている。つまり、何らかの健康上の理由により、新たな行動の実施や行動の変更の必要性がヘルスケアレシピエントに生じること、が前提となる。この必要性は、ヘルスケアプロバイダーは認識しているが、レシピエントは認識していたり、いなかったりする。

また、ヘルスケアレシピエントに必要とされる新たな行動の実施や行動の変更は、各自の自己統制に委ねられているということも先行要件のひとつにあげられる。ヘルスケアレシピエントに自己決定する能力と、実行するか否かを選択する自由があるということである。“Patient compliance” が問われていた“場”(settings) は、138 文献では外来であり、65 文献では外来と入院環境下の双方、32 文献は地域、13 文献が家庭であり、入院環境下のみであったのは 10 文献であったことが、この先行要件を裏付けている。また、“patient compliance” が、高齢者や小児、精神疾患患者において問題となり、議論の的となっていることも、この点に端を発していると理解できる。

一方、分析の過程で、“patient compliance” にプラスに働いたりマイナスに働いたりする数多くの事柄が浮かび上がった。病院・施設までの距離や交通手段、求められる行動の単純さや簡便さ、ニーズや期待、副作用への不安や恐れ、ヘルスケアプロバイダー/家族/社会のサポート、疾患の深刻さや症状の程度、などである。しかしながら、“patient compliance” は、一定の行動がとら

れたか否かに着目して言及する概念であるため、これらは関連する要因であって先行要件ではないと位置づけた。

### 5. 帰結

“Patient compliance” は、必要とされる新たな行動の実施や行動の変更をヘルスケアレシピエントが行ったか行わなかったかを言及する概念であり、ヘルスケアプロバイダーが用いている用語である。したがって、ヘルスケアレシピエントの側に“patient compliance” という何事かがあるわけではないため、その直接の帰結を列挙することは困難である。

ただし、ヘルスケアレシピエントの側には、新たな行動の実施や行動の変更の如何という具体的な現象が常にあり、その新たな行動の実施や行動の変更が遵守された場合やされなかった場合に起こる帰結が必然している。つまり、ヘルスケアプロバイダーが“compliant”あるいは“non-compliant”と形容するヘルスケアレシピエントに起こる帰結である。この、間接的ないし二次的な帰結として、文献から抽出されたのは、症状の改善、治癒、副作用の消退、合併症の減少、発作の減少、死亡率の減少、検査データの改善、医療費用の節約、“well-being”、健康や自由の感覚、救急外来受診の減少などであった。これらはヘルスケアレシピエントの健康状態が改善した結果として起こる。“Non-compliant”なヘルスケアレシピエントの帰結としては、前述の事柄の逆の現象のほか、より多くの検査の必要性、薬剤量の変更の必要性、日常生活の障害、感染の延長、再発、薬剤耐性の出現、ホームレス化、ヘルスケアプロバイダーのストレス、が抽出され、これらはすべてヘルスケアレシピエントの健康状態の増悪により起こる現象である。これらの間接的ないし二次的な帰結は、“patient compliance”の測定の指標となる可能性を有しており、実際に指標として用いている文献も存在した<sup>29)-36)</sup>。

## VI. 考察

1979 年の Haynes による“compliance”の定義は、この概念に関するクラシックに位置づけられる。Haynes は、その著書で、定義に続いて“adherence”が相互交換的に用いられる用語であると述べるとともに、“compliance”は判断・評価的に用いるものではないことを強調している<sup>37)</sup>。にもかかわらず、この定義は以後の多くの文献で批判されてきた。

先に述べた“compliance”に対する批判に共通しているのは、いずれも、ヘルスケアプロバイダーが提案した療法や行動をヘルスケアレシピエントが実施したか、しなかったかということのみではなく、そうするに至ったヘルスケアレシピエントまでも判断・評価する概念として“patient compliance”を捉えているという点である。“Patient compliance”は、患者側の要因をくみ取

らずに断定するという批判から、Moore<sup>38)</sup>は共働を伴うべきであると述べ、Conway<sup>39)</sup>は患者の主体性や医療者-患者相互の尊重を推奨している。Holm<sup>40)</sup>もまた、“compliance”は、態度と行動の両者であるとみなしており、態度としての“compliance”は処方に従う意図や“willingness”から構成され、行動は処方を実際に行うことに関連しているという見地から“compliance”を論じた。

言うまでもなく、患者側の要因や患者の態度に目を向けることは、ヘルスケアプロバイダーの日々の実践において非常に重要であり、欠くべからざる姿勢である。しかしながら、本分析の結果得た概念の属性は、“patient compliance”はヘルスケアレシピエントが一定の行動をとったか否かを問う概念として用いられていることを示すものであった。レシピエントの要因や態度は、“patient compliance”以外の関連概念により表され論じられる部分であると位置づけられる。

“Patient compliance”に対するもうひとつの批判として、用語自体の語源に端を発しているというものがあつた。英語を母国語としないわれわれは直感的に感じることができないが、たとえば“patient compliance”の概念がわが国に入ってきた時期に、「服従」や「追従」といった邦訳がなされ、これらの用語によってこの概念が広まっていたとすれば、今日わが国においても同様の批判や議論が起こっていた可能性は十分理解できる。“Compliance”の代替の用語である“adherence”は、「粘着性」<sup>41)</sup>という意味を有しており、語源という側面からの批判は少ない。

そうした語源的な問題を有するにもかかわらず、“compliance”は広く用いられ続けている。現在、“compliance (patient compliance)”は、National Library of MedicineのMedical Subject Headingsの用語であり、本分析のサンプルとなった文献において、その著者らの所属する機関の所在国は、明記されているものだけで世界27カ国に及んでいた。わが国においても、“compliance”は片仮名の「コンプライアンス」として普及し定着している。

“Patient compliance”という概念が使用し続けられているという事実は、この概念が有する重要性を反映していると考えられる。概念の重要性とは、「問題を解決し、現象を適切に特徴づける概念の能力」<sup>42)</sup>であり、重要とみなされる概念は、「頻回に用いられ、強調され、研究される」<sup>43)</sup>。“Patient compliance”の重要性とは、何であろうか。

医療に携わる専門職にとって、療養上必要な行動を患者が実際に遵守したか否かを知ることは重要である。その過程における諸要因や患者の内的側面をくみ取る視点とは別に、われわれは事実を把握する必要がある。療養上必要な行動を医療者の提案のとおりに行ったか否かは、患者の病状や治療効果に影響するからであり、それらを

アセスメントする際の前提となるからである。“Patient compliance”という概念によって言及される情報は、医療者の実践内容に影響する重要なものである。“Patient compliance”の重要性はこの点にあり、主として医療者側にあるこのニーズが、この概念が患者の行動を問うという属性となっており、その使用の多さに結び付いていると考えられる。

ただし、Rodgersが、「第一義的に重要なのは用語（表現）ではなく、特定した用語によって表される考え（概念）である」<sup>44)</sup>と述べているように、“patient compliance”という概念の重要性は、“compliance”という用語の重要性ではない。本概念の使用にあたっては、“compliance”という用語にはさまざまな議論や批判があること、および代替の用語である“adherence”を用いた文献が増加しつつある現状とその理由をふまえておく必要があると考える。

## VII. 結論

看護、医学、心理学の領域の文献における“patient compliance”の使用のされ方を分析し、その属性を見極めることを目的に、RodgersとKnaflにより提唱された概念分析の方法に基づき、399の英語文献を分析した。その結果、次の5つの属性が明らかとなった。

- ① ヘルスケアプロバイダーが用いる用語としての“compliance”
- ② ヘルスケアレシピエントに関する用語としての“compliance”
- ③ ヘルスケアレシピエントの一定の行動を問う用語としての“compliance”
- ④ 一定期間の行動を問う用語としての“compliance”
- ⑤ 時間の経過とともに変化する“compliance”

分析により、“patient compliance”は、ヘルスケアレシピエントの行動が、ヘルスケアプロバイダーの助言に一致したか否か、あるいは一定の期間における一致の度合いを表す概念であることが明らかとなった。本概念によって言及される情報は、医療者の実践内容に影響する重要なものであり、この点が、さまざまな議論や批判がありながらも、本概念が多くの文献で用いられている理由と考えられた。

本論文は、2002年度聖路加看護大学大学院博士論文の一部に加筆・修正を加えたものである。

## 引用文献

- 1) 常葉恵子, 仁木久恵, 助川尚子, 木下幸代, 野田洋子, 成沢和子編, 看護英和辞典(第1版), 医学書院, 1992.
- 2) 前掲書1)

- 3) 高久史磨総監修, STEDMAN'S 医学大辞典 (第5版), メジカルビュー社, 2002.
- 4) Haynes, R. B., Introduction, In Haynes, R. B., Taylor, W., & Sackett, D. L., eds., Compliance in health care, 1-2, Johns Hopkins University Press, 1979.
- 5) Kingas, H., Duffy, M., & Kroll, T., Conceptual analysis of compliance, Journal of Clinical Nursing, 9(1), 5-12, 2000.
- 6) Holm, S., What is wrong with compliance?, Journal of medical ethics, 19, 108-110, 1993.
- 7) Moore, K. N., Compliance or collaboration? The meaning for the patient, Nursing Ethics, 2(1), 71, 73, 1995.
- 8) Conway, A., Adherence and compliance in the management of asthma : 1. BRITISH JOURNAL OF NURSING, 7(21), 1313-1315, 1998.
- 9) Dracup, A., & Meleis, A. J., Compliance : an interactional approach. Nursing Research, 31, 31-36, 1982.
- 10) Vivian, B., Reconceptualizing compliance in home health care, Nursing Forum, 31, 5-13, 1996.
- 11) Rodgers, B. L., & Knafelz, K. A., Concept development in nursing, 80, Philadelphia, W. B. SAUNDERS, 2000.
- 12) American Psychological Association, Publication Manual of the American Psychological Association (5th ed.), 10, Washington, DC, American Psychological Association, 2001.
- 13) 前掲書12), 12.
- 14) Ressor, D. W., Changing patients' health beliefs to improve compliance with alcoholism treatment : A controlled trial, Journal of Studies on Alcohol, 47(5), 436-439, 1986.
- 15) Phillips, E. L., The ubiquitous decay curve : Service delivery similarities in psychotherapy, medicine, and addiction, Professional Psychology, 18(6), 650-652, 1987.
- 16) Mayer, J. A., Dubbert, P. M., Scott, R. R., & Dawson, B. L., Breast self-examination : The effects of personalized prompts on practice frequency, Behavior Therapy. 18(2), 135-146, 1987.
- 17) Weiden, P., Rapkin, B., Zygmunt, A., & Mott, T., Post-discharge medication compliance of inpatients converted from an oral to a depot neuroleptic regimen, Psychiatric Services, 46(10), 1049-1054, 1995.
- 18) de Villiers, F. P., Chester, E., & Meyers, K. E., Blood glucose control and compliance of diabetic children, Curationis, 20(2), 12-16, 1997.
- 19) Ailinger, R. L., & Dear, M. R., Adherence to tuberculosis preventive therapy among Latino immigrants, Public Health Nurse, 15(1), 19-24, 1998.
- 20) Karter, A. J., Ferrara, A., Darbinian, J. A., Ackerson, L. M., & Selby, J. V., Self-monitoring of blood glucose : language and financial barriers in managed care population with diabetes, Diabetes Care, 23(4), 477-483, 2000.
- 21) 前掲書11), 92.
- 22) 前掲書11), 92.
- 23) 前掲書1)
- 24) Kreps, G., & Thornton, B., Health communication : Theory and practice. Longman, 1984.
- 25) 前掲書10)
- 26) Henson, R. H., Analysis of the concept of mutuality, Journal of Nursing Scholarship, 29(1), 77-81, 1997.
- 27) Madden, B. P., The hybrid model for concept development : Its value for the study of therapeutic alliance, Advances in Nursing Science, 12(3), 75-87, 1990.
- 28) Laederach-Hofmann, K., & Bunzel, B., Noncompliance in organ transplant recipients : A literature review, General Hospital Psychiatry, 22(6), 412-414, 2000.
- 29) Miller, J. A., Pramanik, B., & Gihooly, P., Waxing and waning gynecomastia : an indication of noncompliant use of prescribed medication. South Med, 1999.
- 30) Peveler, R. G., George, C., Kinmonth, A. L., Campbell, M., & Thompson, C., Effect of antidepressant drug counseling and information leaflets on adherence to drug treatment in primary care : randomized controlled trial, BMJ, 4, 319(7210), 612-615, 1999.
- 31) Lienhardt, C., Manneh, K., Bouchier, V., Lahai, G., Milligan, P. J., & McAdam, K. P., Factors determining the outcome of treatment of adult smear-positive tuberculosis cases in The Gambia, The international journal of tuberculosis and lung disease, 2(9), 712-718, 1998.
- 32) Hunt, L. M., Pugh, J., & Valenzuela, M., How patients adapt diabetes self-care recommendations in everyday life, Journal of Family Practice, 46(3), 207-215, 1998.
- 33) Martin, T. L., Salby, J. V., & Zhang, D., Physician and patient prevention practices in NIDDM in a large urban managed-care organization, Diabetes Care, 18(8), 1124-1132,



- 1995.
- 34) Kissinger, P., Cohen, D., Brandon, W., Rice, J., Morse, A., & Clark, R., Compliance with public sector HIV medical care, *Journal of the National Medical Association*, 87(1), 19-24, 1995.
- 35) Brownbridge, G., & Fielding, D. M., Psychosocial adjustment and adherence to dialysis treatment regimes, *Pediatric Nephrology*, 8(6), 744-749, 1994.
- 36) Ogbuokiri, J. E., Self-monitoring of blood pressures in hypertensive subjects and its effects on patient compliance, *Drug intelligence & clinical pharmacy*, 14(6), 424-427, 1980.
- 37) 前掲書 4)
- 38) 前掲書 7)
- 39) 前掲書 8)
- 40) 前掲書 6)
- 41) 前掲書 3)
- 42) 前掲書11), 81.
- 43) 前掲書11), 82.
- 44) 前掲書11), 79.

## “Patient Compliance” : A Concept Analysis

Kayo Cho

(The Jikei University School of Nursing)

This study was designed to identify attributes of “patient compliance” by analyzing the common use of the concept in the literature of nursing, medicine and psychology.

The method of concept analysis advocated by Rodgers (1989) was employed. The sample for this study was selected from English language literature published in the fields of nursing, medicine and psychology during the years 1975 through 2000. 399 samples were extracted from MEDLINE, CINAHL and PsycINFO. 5%, 10%, 5% samples were retrieved from the population of each database that list “patient compliance” as MeSH Major Topic or “compliance” as a keyword. The analysis was mainly made on titles and abstracts. If necessary, the body of articles was confirmed.

The findings were as follows :

The attribute were

- ① “Compliance” as a term used by only healthcare providers ;
- ② “Compliance” as a term revealing judgements or estimation about healthcare recipients by healthcare providers ;
- ③ “Compliance” as a term evaluating health care recipients' behaviors ;
- ④ “Compliance” as a term evaluating continuation ;
- ⑤ “Compliance” as changing over time (dynamic).

A surrogate term used interchangeably with “patient compliance” was “adherence”. Related concepts were “mutuality”, “therapeutic alliance” and “concordance”.

“Patient compliance” was the concept that asks did the behavior of a healthcare recipient conform or not with the advice of a healthcare provider, and/ or the extent of the consistency in a specific period. The significance of this concept was that the concept provided important data for healthcare providers. This significance gave a reason why the concept was used often despite many criticisms and discussions.

### Key Words

patient compliance, concept analysis, nursing